

冬季酪農講習会に出席して

——青森県と北海道中北部地方——

中野富雄

一月以来各地の酪農青年研究会や乳業会社から招かれて、今年の飼料設計の資料として飼料作物の栽培について御相談に乗つて参りました。北海道最北端の稚内から道中央部、青森県下と廻り、何れの土地でも熱心な酪農家の参集があり、むしろこちらの方で勉強になる様なお話を伺つたのですが、この間この千差万別の立地条件と経営規模の酪農家の声をきいて感じたことを、既にいいふられたことではありますが、二、三申上げたいと思います。

なかなかその前途には考えなければならぬ問題が山積しているようです。
しかしこ一、二年来、高度集約酪農地域の指定や機械開墾の進捗に伴い、急速に酪農熱が高まり、古くから酪農に精進している人々が先達となつて、乳牛の導入、牛舎の改善、飼料生産などに一步一歩、地盤を堅めつあることが、種々な点から窺はれ、心強い思いに打たれました。

奥羽山脈山麓の戸来、西越、島守など山にたよる酪農、八戸、尻内周辺の稀にたよる酪農、この間に織りこまれる林檎酪農、更に一歩進んで下北半島の斗南丘の北海道的な酪農、これ等を通じて、この狭い経営面積の中で、而も穀穀生産と乳牛を結びつけて行くためには、飼料作物の合理的な栽培利用以外には方法はないようと思われます。

青森県下の酪農の歴史はいまだ浅く、千差万別の經營形態の中に、乳牛がどうにかくついたといった感じがいたしました。馬房が牛小屋に代り、まぐさ桶に牛の餌が入り、台所の洗水でダブダブに練られた餌が毎日の乳牛の飼料といつてゐる。「ダブ飼い」、採草地は遠く、飼料面積は少く、牛乳は大部分いわゆる濃厚飼料から搾られるといった経営がいまだに少くないと聞く。林檎と乳牛、稻と乳牛、あるいは林檎、水稻、乳牛、又海浜では水産と結びついた

酪農まであり、極めて内容は複雑であり、維持増進に結びついてゆくことを思えば前

途は明るいものということが出来ます。全般を通じて

1 裏作利用の飼料作物の集約多毛作の設置

3 草地の改良

この三つが、青森県下の、いや恐らくは東北のこれから酪農を推進する基盤となるものと思われます。口で申せば簡単ですが、いざ実行となるとなかなか困難が伴います。

草は農業の敵なりと考へている人々にとって畑に、園地に牧草を作ることはなかなか思い切れないし、多毛作の問題にしても技術的に試作の必要な段階であります。又草地の改良にても、機械力、労力あるいはその他の経費にも問題があると思いますが、一面高い金を投じて導入した乳牛、而も日々管理のため相当な労力を要する乳牛が、自分の經營に役立つように牛乳を増産し、その飼料代が節約され、而も長命であるためにはどうしても、これらのことをやつて行かねばならないのではないかと思わせられました。戸来地区における山野の草生改良、八戸附近の林檎園の草生改良、斗南丘の牧草地輪作による地力増進など何れも既に立派な成果をあげつつあるようですね。前記の三項目について簡単に考え方を申上げてみましょう。

2 ラデノクロバーによる集約放牧地

最近ラデノクロバーほど急速に、全国の酪農家に利用された牧草はありますまい。それは勿論ラデノクロバーの持つ多収性、高栄養、及び栽培容易な性格によるものであります。春から秋にかけて絶えず緑葉を生産してくれる、放牧もし、繁殖もし、刈取りもよく、東北の土壤、気候にも恰適し、何か工面して、牛舎からほど遠からぬ畑にこれを作つて置けば、青刈の端境期に、あるいは労力不足の頃に常に有效地に利用出来るのです。土壤条件が良ければ反当五、〇〇〇貫の収穫も困難でないといわれています。飼料生産は主として青刈利用の

場合が多いから、多毛作も可能であります。冬作として、ライムギ、レーブ(ナタネ)、ヘアリーベッチ、秋マキエンドウ、刈大豆、家畜用かぶ、デントコーン、ソルゴー、コモンベッチ、つるまめなどは何れも短期間の収穫も可能で、二毛作の材料としてすぐれた性質をもつており、何れもそれが実績を持つてゐるようでした。これ等の時期別の収量などは今後現地において試作の上、確実に把握して置かなければなりません。併せて冬の飼料としてデンムコーンが多く準備されているようですが、今後、生で貯蔵の出来るビタミン源として根菜特に家畜ビートの栽培にまで進展してほしいものであります。事実斗南丘では非常な多収をあげており、これが牧草とむすびつて逐次理想的な型となりつつあるようですね。

1 裏作利用と集約多毛作

これは田畠を問わず零細な土地から多く、その生産をあげるためにそれ工夫をこらすべきです。飼料生産は主として青刈利用の

けつして他の作物より損ではありません。出来るだけ近くの、良い土地にラデノクロバーの放牧地が出来ることを期待する次

3 草地の改良

これはなかなか問題であります。相当な傾斜もあり、而も部落から遠く、道路も補修されておらない所が多いようです。しかし長期計畫を樹て、一步一歩目標に近づきたいものと思ひます。既に試作の結果では、赤クロパーのみならずルーサンも良く生育する所もあり、草生改良の完成する日も遠くないよう思われます。これと同時に路傍、畦畔園地の牧草化、傾斜地の斜面の牧草化—例えばオーチャードグラス、ケンタッキー三一封エスク等は今後導入さるべき第一の草でありましよう。これらの牧草は結局、家からは遠い存在の場合が多いのですが、今後は牧草サイレージの調製について一考を必要とするようです。運搬の手数、労力、刈取適期、夏の末期の飼料不足など考え併せると、トレンチを利用してでも牧草サイレージを準備すると万事がうまく行くのではないかと思われました。

◎道北の酪農と飼料作物

これは昨年の冷害で相当な被害をうけた地帶です。そしてその対策として酪農家では、デントコーン依存を止める、牧草を主体とした経営に切りかえたい意見も少からずありました。稚内地区では牧草サイレージが既に利用されており、道中央部地区では、牧草利用の割合が高くなりつつあるよ

用 途 土 壤 別 混 播 例

うに見受けられました。これは青刈作物や、デントコーンなどが、なかなか思うような生産を挙げてくれない反面、牧草が比

1 優良牧草地の造成 2 いね、まめ科混播牧草地と穀穀生産の輪作 3 冬期のためのビタミン源としての根菜

が経営的に必要なことのよう
うに思われました。牧草地で、
についてはとくに单播で、
而も長年月に亘り、更に適
期を過ぎて刈取る傾向が多い
いようです。これは他の作
物や天候の関係もありまし

ようが、牧草の価値を知らず、又牧草の立派な生育を知らないことに帰因するのではないかと思われます。一つ今年は思い切つて、一二町歩ぐらいに、厩肥や石灰を施し、そこへいね科(例えはチモシー、オーチャード、ブローミンググラス、ペレニアルライグラスなど)まめ科(赤クロバ、ルサイククロバ、ラヂノク

適当な混播をやり、来年から早や放牧が出来るようになつ

て欲しいものと思いました。何處でも質問のあつた事項は、どんな牧草を選び、どんな割合に混播するかということであります。これは全く土壤条件などによつて決定

すべきことで、一概にはいえませんが、一つの参考として、別表のような組合せが今後共利用されうる組合せではないかと思われます。特に冬期の蛋白源としてこれらの混播牧草の乾草やエンシンレージの質が重要な意義を持つていて、逐年このような混播草地を完成してゆくような長期に亘る計画が必要であることも痛感させられた次第です。冬期飼料として、根菜の価値—特に家畜ビート、天北におけるルタバガの価値は、予想以上に深く認識され、實際これが多収を期して作付されているようで、特に稚内地区で根菜反収三、〇〇〇貫の自慢話は、将来各地で予想される反収として嬉しく感ぜられました。

以上誠に概要ですが、各地の空氣から感ぜられたことを述べましたが、最後にもう一言加えたいことは、第一は牧草に対する信頼感とその反収増が特に栄養成分の増加のための努力が逐次高まりつつあること、第二は飼養標準が逐次上手に利用されつてることで、この二つの考え方が基礎となつて全酪農家が自己の經營の分析を行う一即ちいわゆる経済検定の実行にまで入つてゆくならば、眞の意味で完成した酪農經營が出来上つていくのではないかと思われました。